

## 運輸系統の社員運用変更反対！

### 4月1日一方実施に抗議する！

本日4月1日より、会社は「運輸系統の社員運用の変更」の新制度を私たちJR東海労や他労組の多くの組合員の反対にもかかわらず一方実施する。会社は「4月1日実施前提ではない」「十分に協議する」と提案時の説明にもかかわらず、未説明の問題点がおおおくあるにもかかわらず、何らの修正も行うことなく強行実施した。JR東海労はあらためて反対の意志を明らかにする。

本部は3月29日、「運輸系統の社員運用の変更」について「現時点では妥結しない」ことを会社に通告した。提案以降何が問題なのか、なぜ反対するのか、たたかいの中ではっきりさせてきた。JR東海ユニオンや国労が今年の1月、早々と妥結した後も、粘り強く説明や対案を提示し修正・撤回を求めてきた。昨年8月4日の提案以降、これまで12回の申し入れと13回の団体交渉を行った。しかし、会社はまったく私たちの声を聞かず本日一方実施した。

一方、JR東海ユニオンは、提案をスムーズに導入するために会社との出来レースを展開、1月18日妥結した。しかし、ユニオン東京運輸所分会の声明に「将来に向けて安心して目標と意欲を持って働けるようにすることが大きな課題として残った」「もっと時間をかけて議論をするべきだった」とある。これらは職場の多くの組合員が不満、不安を抱えるなかで妥結したことを証明している。ユニオン本部が「組織の浮沈をかけ、取り扱いを誤れば求心力を失いかねないというのが本部の率直な思いだった」「苦渋の判断をせざるを得ない」と言わざるを得ないように、この制度がいかに多くの問題を抱えているのかを示している。

ユニオンは、職場組合員に声を封殺するために早々と妥結した後、わがJR東海労に対して「海労、いよいよ妥結か！」「『白紙撤回！』とは裏腹に、完全に妥結モード！？」などとキャンペーンをはった。それはふき上がる組合員からの不満・意見を抑えるためのものに他ならない。ユニオン本部の皆さんよ！私たちJR東海労は、残念ながら君たちの浅はかな期待には応えられない。

全組合員の皆さん！

「運輸系統の社員運用の変更」は一方的に強行実施されるが、確実にあらたな問題が発生する。当然にも、本部は今後も継続した取り組みを展開する。たたかいの終盤において、わがJR東海労をなんとしても妥結させようとした動きや、さらに4月1日以降無協約状態にさせようとした動きに対して、断固としてはね返してきた。そして職場からのたたかい、他労組組合員への創意したたたかいが、3月30日労使関係部分の協約を締結することにつながった。今後制度の運用の中で差別的扱いを通じた組織破壊攻撃も予測される。

この施策が、大きな問題を抱えていることをさらに職場から強く訴えていこうではないか。その拡がりこそ組織破壊を許さないたたかいである。

最後に、JR総連に結集する全国の仲間や、本部に対する地本、分会、全組合員の皆さんからの物心両面にわたる多大な激励に対して厚く感謝を申し上げ見解とする。

2005年 4月 1日

ジェイアール東海労働組合（JR東海労）